

# 米軍指揮下で敵基地攻撃も

## 安保3文書の骨子判明

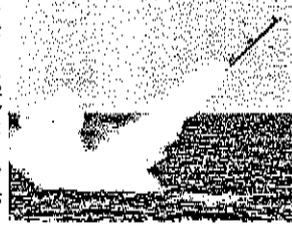
### トマホーク念頭「着実に導入」

政府が年末に改定する「国家安全保障戦略」など安保3文書の骨子案が10日までに明らかになりました。骨子案は、歴代政権が遠慮と判断してきた敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有を明記。米軍がイラクやアフガニスタンでの先制攻撃戦争などで使用した巡航ミサイル・トマホークの購入を念頭に、「外国製スタンダード・オブ・ミサイルの特異な導入」を盛り込みました。

↓関連・解説の面

骨子案は、これまで掲げていた「総論ミサイル防空」に代えて、敵基地攻撃と「ミサイル防衛」を一体化した「統合防衛ミサイル防衛（IAMD）」の導入を明記。IAMDは米軍が開発を進め、ロシアや中国への対処を念頭に、同盟国

トマホーク巡航ミサイルのイゼン社ホームページから



への対処を念頭に、同盟国に参加を促しています。

自民、公明両党が保有で合意した敵基地攻撃能力は、第2次安倍政権が施行した新たな武力行使の3

安保3文書は、▽「国家

安全保障戦略」(NSS)▽「国家防衛戦略」(NDSS)▽「防衛力整備計画」(DP)からなります。NDSSは現在の「防衛計画の大綱」を改称したもの。米国防総省の戦略文書と同じ名称にする一方で、日本の戦略的な一体化を促進するのが狙い。「スタンダード・オブ・防衛能力」など、重視する7項目が記されています。「防衛力整備計画」は、現在の中期防衛力整備計画に代わるもので、おおむね5年間の軍力整備計画を記載。2023年度から5年間で総額4兆円の大増拡が明記されており、「スタンダード・オブ・ミサイル」＝遠距離巡航ミサイルの導入総額は約5兆円とされています。

### 安保3文書の柱

国家安全保障戦略	最上位の戦略文書で2013年に初めて策定。中国の軍事的台頭などを踏まえ改定へ
国家防衛戦略	「防衛」目標の設定と方法、手段を明記。期間はおおむね10年。重視する能力として、以下の7項目を明記 ①スタンダード・オブ防衛 ②統合防空ミサイル防衛 ③無人アセット ④領域横断作戦 ⑤指揮統制 ⑥機動展開・国民保護 ⑦強靱(きょうじん)性・持続性 「反撃能力」を明記
防衛力整備計画	10年後の体制を念頭に5年間の経費総額、装備品の数値など記載。23～27年度で総額43兆円



大阪府法会館・共同センターの宣伝で「大増拡・大増税をやめさせよう」と呼びかける日本共産党の清水史前衆議議員(左)ら9日夜、大阪市北区 →記事①・関連⑩面

いま街頭に出て「大増拡・大増税に断固反対」を訴えよう